

「(仮称) 道の駅姫路」の夢を語るアイデア会議 開催記録

— 地域にあるとうれしい道の駅を考えよう! —

1. 開催概要

○日 時：令和3年（2021年）7月11日（日）14時00分～15時40分

○場 所：谷外公民館

○参加者：19名（地元自治会から推薦・選出された地元住民）

*その他運営等

・姫路市 産業局 商工労働部 道の駅推進室（森、森川、金井）

・(株) 地域計画建築研究所（アルパック）（委託事業者）（原田、三浦、武藤、浅田）

○プログラム：

開会

1 はじめに（趣旨説明）

2 前提条件（基本構想）の共有

3 アイデアの語り合い【グループ別】

・はじめに、参加者の紹介

・テーマ①：「どんな道の駅であれば、日常的に利用したい？」

・テーマ②：「道の駅ができることを活かして、地域で取り組みそうなこと」

4 全体での共有

閉会

○開催の様子：



2. 開催結果（参加者の意見・アイデア）

テーマ①:どんな道の駅であれば、日常的に利用したいか

●地元住民が日常的に利用できる

（イベント広場）

- ・屋根つきフリースペースもほしい
- ・市内で開催されているイベントを道の駅で開催してほしい。
- ・ミニコンサートホール(学校のギターマンドリン部の練習や発表の場などで活用、地域団体が使い続け、地域住民も集まる機会になる)。無料で貸してほしい。
- ・みんなで作り食べられる場所、共食の場
- ・イベント、フリマ、憩いの場などが開催できる
- ・朝市(土日;野菜、果物、パン、和菓子等)

（運動広場）

- ・ゲートボール場、グラウンドゴルフ
- ・城山中学校のグラウンドが狭く、部活動に制限がある。道の駅にスペースを作れないか。
- ・健康施設、ジム、温水施設など

（行政機能）

- ・市の出先機関(支所、子育て施設併設)を設置してほしい。
- ・支所機能(AI等を活用した無人化のもの)
- ・高齢者の健康と福祉の窓口

●屋外で遊べるスペース

（遊具など）

- ・「子ども」が遊べる場所。子どもが来ると親や祖父母も一緒に来ていただける。
- ・芝の坂を滑るローンスライディングを作る(そりは無料で貸し出し)

（動物）

- ・姫路動物園の移転等に伴い、「移動動物園」を実施。その受け皿。
- ・動物の子どもとのふれあい広場(姫路セントラルパークと協力)

（その他）

- ・BBQ場(手ぶらで来て、道の駅で食材を調達できる)
- ・スポーツ施設(バスケ・サッカー・野球・ラグビー・スケボー・ローラースケート)。
- ・小さな遊園地

●特産品の販売

- ・姫路の特産品(レンコン、アナゴ、ネギ、豚肉、ヤマサ蒲鉾、魚、工芸品、ゆず、地酒 等)
- ・地域の特産品(トマト、桃、レンコン 等)
- ・JA等と連携した直売所
- ・加工所を整備した加工品づくり(みそ、こうじ、もろみをつくる人材がいる)

●水辺空間

- ・天川と連携した水遊び。子どもが水遊びできる(小川、プール等)。地元雇用で管理運営できないか。
- ・川沿いにサイクリングロードがあり、サイクリングに活用できないか(加西まで続いている)。
- ・天川ではなく井戸水などを使用し、きれいな水が流れる谷を作る(遊べる+見てきれいな空間)
- ・ホテルが来れば、売りになる
- ・ビオトープの整備も良い。夏の暑い日に水は必須
- ・「ため池+レストラン+花壇」は、きれいな場所として売りになる

●防災時の対応が可能(災害備蓄+拠点)

- ・温泉
- ・貯水槽
- ・芝生広場
- ・避難場所
- ・キッチンカー
- ・水素ステーションなどのエネルギー設備
- ・導線が確保されている(入口、出口など)

●観光や地域の情報を発信する

- ・この地域と歴史を知ってほしい
- ・「姫路城下町」を発信する。
- ・姫路の紹介は、プロジェクションマッピングや映像を使用。シアター形式で上映する。
- ・播磨の紹介もできればよい → 道の駅に寄ってから姫路城に行ってもらう
- ・ふるさと納税がその場でできる専用の自販機がある(返礼品がもらえる)。
- ・例えば、「山の上に登りたい」というニーズにも対応(案内人や地元の関わりも必要)。

●地域農業との連携

- ・「春の七草」を地元で作ってはどうか。収穫体験
- ・「次の世代」につなげていけるように、まわりのほ場整備とセットで検討すべき。
- ・さくらんぼ、いちご、ぶどうなど、「核となるアイテム」が必要。産地形成を道の駅と一緒にできないか。地域農家に呼びかければ、賛同する農業者もいると思う。
- ・季節ごとに収穫できる農園(ハウスで生産(イチゴ、トマト…))。学童農園(サツマイモ等)。
- ・農業者がすべてを担うことは難しく、その一部分を担ってほしい。例えば、収穫体験の企画や受付。生産した農産物の販売管理、販路(ネット販売含む)、規格外品の加工事業など。農業経営のサポートがあれば助かる。
- ・企業連携ができないか。

●新しい技術を取り入れる(体験ができる)

- ・2030—40年代を見据えた整備
- ・EV産業の拠点(EV・水素ステーション)。地域交通の拠点(自動運転の実験等)
- ・スマートシティ(例:トヨタが富士山麓に整備しているスマートシティ)
- ・eスポーツ
- ・スクリーンゴルフ
- ・イルミネーション
- ・ドローン

●シンボルになる、知名度を高めるモノ・コト

- ・道の駅のシンボルとなる城の見える展望台(レストラン付き)
- ・「全国で一番〇〇がある道の駅」などをめざす。

●その他、屋内の機能

- ・「回遊性」が大事。各施設や機能をめぐるなど。
- ・フードコート、レストラン。和洋中のいずれにも対応。
- ・ワーキングスペース(リモートで仕事ができる場。学生、社会人等が活用)
- ・日帰り風呂、足湯
- ・姫路特産の皮革のものづくり体験など。
- ・宿泊施設

●トイレ

- ・宝塚のサービスエリアのように清潔なトイレがよい。
※設備面に加えて清掃が行き届いていることが重要。
- ・「姫路城が見えるトイレ」は売りになる。
- ・きれいなトイレ、バリアフリー 等

●駐車場等

- ・駐車場 夏は暑いため、緑いっぱいの駐車場で日陰ができるとよい。落葉樹なら冬は日なたになって良い。
- ・親子でのふれあいオートキャンプ場。姫路には海も山もあり、道の駅で食材が購入できる。

●道の駅周辺の環境

- ・「渋滞対策」が必須。道路を拡張するなど。
- ・山陽姫路東インターチェンジのイメージよくする必要がある。玄関口としてごみの撤去、看板設置など。

●その他

- ・社協ふれあい事業との連携
- ・姫センに来た子ども、法華山～書写山の寺参りの人が寄れるようにする
- ・高速バス、空港リムジンバスを停めてほしい
- ・道の駅だけでなく、関連施設も必要。姫路市の関連のもの、ここならではのものを入れるべき。

テーマ②:道の駅ができることを活かして、地域で取り組みそうなこと

- ・天川(水遊び)の管理(地元雇用として)
- ・案内ガイドの育成 等
- ・収穫体験を行う場合の生産や受入(産地形成として進めれないか)
- ・巡るルートやマップづくり(地元の地域夢プランで一定の実績あり)